

「コンパクトなまちづくりを考える住民意見交換会」 開催結果概要

開催概要

- ①市説明【釧路市のコンパクトなまちづくりについて】
- ①意見交換 「居住誘導区域について」ほか

コンパクトなまちづくりを考える 住民意見交換会

私たちが住む釧路市においても、人口減少や少子高齢化が進んでいます。このような状況の中、将来に渡って、いかに暮らしやすい、活力を維持したまちづくりを行っていくか。この課題に対応するため、市では、市民の皆さんの意見を伺いながら「コンパクトなまちづくり」を進めてきました。今後、これをさらに推し進めるため、これからの取組を市民の皆さんと情報共有し、ご意見をお聞かせする住民意見交換会を開催します。

「コンパクトなまちづくり」によって実現を目指すまちづくりに対して、ぜひ、会場でお聞かせ下さい。

とき・ところ

開催日	会場
5月9日(水)	コアかがやき
5月10日(木)	鉄北中央会館
5月11日(金)	寿生活館
5月15日(火)	生涯学習センター 6階602号室
5月16日(水)	はまなす会館
5月17日(木)	緑ヶ岡会館
5月22日(火)	桜ヶ岡中央会館
5月23日(水)	春採下町会館
5月24日(木)	コア鳥取
5月29日(火)	大楽毛生活館
5月30日(水)	新富士生活館

「コンパクトなまちづくり」とは、市街地を縮小するのではなく、広い市街地に分散している店舗や店舗・福祉などの日常生活に必要な施設を一定の集積点に集積し、その周辺に往復することで、人口減少下でも徒歩や公共交通を利用しながら、便利な暮らしを将来も維持していこうという考えです。



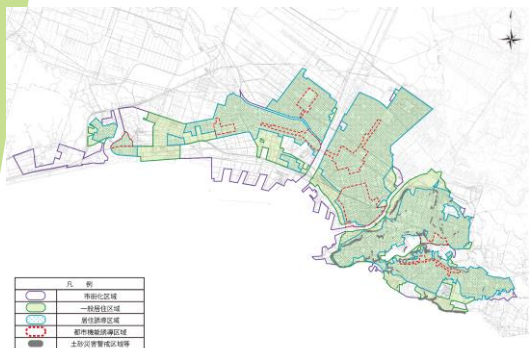
◎各会場とも開催内容は同一です。事前申込は必要ありませんので、お気軽に会場までお越しください。
◎当日は、はじめに市の担当者から「コンパクトなまちづくり」について説明し、その後、参加された皆さんと意見交換を行います。

時間 (各会場共通)
午後6時30分から
1時間半程度

◎会場の詳細は、裏面をご覧ください。◎会場へお越しの際は、公共交通機関のご利用にご協力ください。
主催/釧路市(問合せ: 総合政策部都市計画課 31-4555)

開催人数及び参加者数

開催日	会場	参加者数
5月9日(水)	コアかがやき	12人
5月10日(木)	鉄北中央会館	8人
5月11日(金)	寿生活館	2人
5月15日(火)	生涯学習センター	21人
5月16日(水)	はまなす会館	8人
5月17日(木)	緑ヶ岡会館	18人
5月22日(火)	桜ヶ岡中央会館	10人
5月23日(水)	春採下町会館	10人
5月24日(木)	コア鳥取	14人
5月29日(火)	大楽毛生活館	24人
5月30日(水)	新富士生活館	14人
合計		141人



凡 例	
	市街地区域
	コンパクトなまちづくり区域
	居住誘導区域
	公共交通機関沿線区域
	公共交通機関沿線区域

「コンパクトなまちづくりを考える住民意見交換会」 主な意見①

(1) 居住誘導区域設定についての意見

- 居住誘導区域の内外で行政サービスに差がない、区域外で家を建てられるとのことだが、コンパクト化するという点から矛盾するのではないか。
- 今後、車の運転が出来なくなった時の心配はあるため、それほど歩かなくても病院や買い物に行けるような環境を作ってもらえるのであれば、引っ越したい。
- 誘導を行う上では、住宅政策が非常に重要。
例えば、低層階にスーパーや病院が入居した公営住宅を整備してもらえらなら引っ越したい。
- 今後20年も経つと、市内は空き家だらけになる。急激な人口減少を見込んだ時、心配。
- 空き家バンクのような取組を考えるべき。
- ある程度、お金による誘導策がなければ、誘導には応じてくれない。
- 居住誘導区域外となる方について、配慮すべき。

(2) 計画全般についての意見

- 人口減少を前提に物事を考えるのではなく、いかに人口を減らさないかの視点も必要。
- 行政サービスについて、例えば、児童数が減少している割に小学校の数が多い。
学校当たりの児童数はとても少なく、効率的ではない。公共施設の効率化も必要。
- 誘導施設について、図書館等の文化的施設よりも、金融機関、地域包括支援センター、市役所支所を含めるべき。
- 若い人たちに住みつけたいと感じさせるようなまちづくりが必要。



「コンパクトなまちづくりを考える住民意見交換会」 主な意見②

(3) 公共交通についての意見

- 通勤通学時間以外の時間帯については、マイクロバス化を検討してはどうか。
- 立地適正化計画を推進するためには、拠点間を結ぶ公共交通の整備が大変重要。
- 拠点間に加えコミュニティバスやタクシー等、その他交通網についても整備を行うべき。

(4) その他の意見

- 少子化対策が釧路市では全然見えてこない。
- 少子化問題を考える場合、いかに雇用を増やすかが重要。
- 若い人が学校卒業後も釧路から出ていかない方法をまずは考えなければいけない。

